

胆 嘗 薪 臥



終了間際、逆転トライを決め喜ぶ小倉の選手

地力のある新チームだが、福岡県新人大会準々決勝で小倉にまさかの大逆転負けを喫した。後半途中まで24-0とリード。しかし、けが人が出たこともあり、試合の進め方がどこかぎこちなかった。終盤、小倉のFW中心の猛攻を耐えきらず、最後に飛び込まれて逆転のトライを許した。もちろん一番ショックを受けたのは選手自身で、しばらく練習試合も入れずに基本を大切に練習に励んだ。

今季の福岡は東福岡が頭一つ抜けだし、あとは混戦模様だ。準決勝で福岡と筑紫は14-14の引き分け。筑紫が抽選で決勝に進んだ。もう1試合は小倉が東福岡に7-59で大敗したが、3位決定戦では、福岡に21-14で競り勝った。福岡県の決勝は東福岡が35-12で筑紫に勝ち、両校が全九州新人大会へ。結局、九州大会の決勝も両校の対決になり、東福岡が41-0で返り討ちにした。

福岡勢は、力をつけてきた東海大五、東筑までを含めた高校からどこが抜け出して、王者の東福岡に迫れるか。福岡との定期戦、春の公式戦に注目したい。

21日は新OB歓迎会

恒例の新OB歓迎会を春分の日(21日)の夕方からピエトロセンター(本店、福岡市中央区天神3-4-5)ピエトロビル1F(電話092-715-8281)で開きます。ふるってご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

今年の新OB・OGは選手9人と女子マネージャー2人の計11人。全国大会出場こそありませんでしたが、新人大会では準決勝で筑紫を破り、沖縄での全九州新人大会に出場しました。すでに1日に卒業式を終えており、若人の新たな旅立ちを激励してあげてください。



卒業式の後、闘魂碑の前で記念撮影に収まる新OB・OG

■平成25、26年度会費の納入にご協力お願いします。■
春です。別れあり、出会いあり、ラグビーを、旧友を思いお振り込みください。

★年会費 7,000円 (学生 3,000円、70歳以上 5,000円)
★振込先 西日本シティ銀行 西新町支店
普通 1336258 修猷館ラグビーOBクラブ

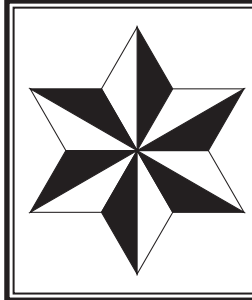
●発行 / 修猷館ラグビー部OBクラブ

事務局 / 松尾 邦雄 (S46卒)

〒818-0105 太宰府市都府楼南2-16-45-707

携 帯 090-3012-0903

E-mail mactaiho@san.bbiq.jp



修猷館ラグビーOBクラブ

会報 平成26年3月号

修猷館ラグビー部 公式ホームページ
URL <http://rugby-shuyukan.com/>

4.29



祝 福中・福高 創部90周年

■記念試合 修猷館 VS. 福岡

コカ・コーラウエストさわやかスポーツ広場
福岡市東区香椎浜ふ頭1丁目2-2

13:00 OBオーバー35 15分ハーフ

13:40 OBアンダー35 20分ハーフ

14:40 現役 30分ハーフ

■記念祝賀会

ホテルオークラ福岡 4階 平安の間
福岡市博多区下川端町3-2

18:00~19:30

会費 8,000円

ともに4月29日(火)昭和の日に集合!

初対戦から89年



昨年の定期戦では現役は快勝した

講演会」があったこともあり、4月に創部。溝口博・元OB会長は「福中は秀才を集めてスタートしたが、修猷は“わるそう”が中心になって始めた」と述懐している。早くも17日には福中との記念すべき初試合が組まれたが、0-28で完敗。続く29日には健闘したが、3-8で敗れた。この年は福中創部1周年記念（7月）を含めライバルと4回対戦したが、全敗に終わった。

福中に初勝利したのは、創部3年目の1927（昭和2）年7月。修猷のグラウンドで12-0の零封勝ちだった。しかし、12月の第10回全国中学大会九州予選決勝では0-8で惜敗。悲願の全国大会出場を逃した。

元部長の守田基定氏は両校を「太陽と星の関係」と回想している。春に勝てても、秋の全国大会予選では負けることが多く、福中・福高は大きな壁として立ちはだかった。真紅に白線が鮮やかな相手ユニホームは、熱気に満ちあふれまさに太陽。対する修猷は六光星の校章からも、きらりと輝く星のイメージだったが、福中の大先輩方は「スターといえども、太陽のもとでは色あせるバイ」と冗談交じりに言っていたらしい。

来年へつなげ

日野博愛・福中・福高ラグビー部OB会会長は今回の記念事業への招待状の中で、「今日の福高ラグビー部があるのも貴校（修猷）という良きライバルのお陰であると感謝の気持ちで一杯でございます。良きライバルであってこそ特別の矜持が生まれ、その矜持から生まれる気合、その気合から生まれるタックル。この気合のタックルこそが、福中・福高伝統のタックルであり、大切な魂です」と記しています。1925年4月の初対戦からお互い数え切れない名勝負を繰り広げてきた。来年の修猷ラグビー部の90周年を成功させるためにも、一人でも多くグラウンドに集まり、福中・福高の魂のタックルを受け、節目の年を盛大にお祝いしましょう。

永遠のライバル、福中・福高ラグビー部が創部90周年を迎える。柔剣道などでは伝統がある修猷に一日の長があり、何とかスポーツでの劣勢を挽回しようと、福岡中の中園淳太郎先生が「級長集まれ」と号令をかけ、九州中等学校ラグビーの草分けとして産声を上げたのが1924（大正13）年の夏。十干（じっかん）、十二支のそれぞれ最初の「甲（きのえ）と「子（ね）」が60年ぶりに出合う縁起のよい年で、甲子園球場が誕生した年でもあった。

修猷の創部は翌25（大正14）年。1月に館内でラグビールーツ校の慶應OB白田六郎氏の「ラグビー

浦和高に学べ

全国屈指の公立進学校、埼玉県立浦和高が54大会ぶりに第93回全国高校ラグビー大会に出場しました。レベルの高い埼玉を勝ち抜いたチームを、OB会はどう支えてきたのか。第57回大会（1977＝昭和52年度）を最後に全国大会から遠ざかる我々が9回目の出場を果たすには、何をどう目指すべきなのか。得丸幸夫・浦和高校OB会会長からメールで貴重なヒントを頂きました。

浦和高OB会は幹事会などで「若いOBは、金は少なくてもよいから、力を出して練習相手になってほしい。古いOBは、金を多く出して、口数は少なくしてほしい」ということをよく確認しているそうです。同高ラグビー部は、1946（昭和21）年に創部され、1959（昭和34）年度、第39回全国大会に初出場（この大会には修猷館も出場）しました。1996（平成8）年の創部50周年を前に、OB会の強化がはかられ、会則の制定や会報「大銀杏」の発行が始まりました。50周年の記念事業としては、試合や記念誌の発行、記念碑の制作・除幕式などが行われたそうです。英・ホイットギフト校への海外遠征なども実施し、現役はメキメキと力をつけてきました。

志田明幹事長の発案により、2000（平成12）年ごろからOB会のメーリングリストを作成し、現役の情報を発信していることが、会費集めなどに力を発揮しています。毎年のOB会報は、会費の振込用紙と一緒に郵送。発送作業は大変ですが、最近は現役が手伝ってくれており、会費集めなどの苦勞が早めにわかっているのかも知れない、ということです。

前述したように、OBは口は出さず資金を集め、現役の援助に使うことを原則にしています。菅平での夏合宿には、OB役員も参加して15分位ですが1年生の現役と試合をしているそうです。修猷館と同じように、若手OBは、金もなく、たいてい浪人して時間もないことから、OB会への参加が途切れてしまいがちです。また、最近は高校で燃え尽きて、大学に進学してからはラグビーをやめてしまう学生も多く、OB会の参加は少ないのが現状だそうです。これは過去のラグビー部の歴史でも大きな波があり、ラグビー部の存続が危ぶまれる時期が何度もありました。しかし、ラグビー部が強くなるにつれて部員数も増え、来てくれるOBも増えているそうです。これは、現場の先生方の努力がかなり大きいようです。また、最近はOB会に父母会も参加されるそうです。正月のOB戦では、父母の方々が炊き出しをしてくださり、現役とOBと一緒に交流します。これも大きな力になっているようで、我々も新たに父母会との協力などを考える必要があるかもしれません。

得丸会長をはじめ浦和高ラグビー部OB会の皆さま、突然のお願いに快くお答え頂き、ありがとうございました。



花園での1回戦の後半24分、トライする浦和WTB白石



花園のバックスタンドはブルーの小旗を持ったOBや学生で埋まった

《埼玉県立浦和高校》旧制浦和中として1895年に創立の男子校。校訓は文武両道という意味の「尚文昌武（しょうぶんしょうぶ）」。東京大学合格者は都道府県立高校の全国トップで昨年は46人。勉強、部活、学校行事の「三兎を追え」という理念がある。同窓会HPによると、今回の快挙に全国大会特別後援会への募金は3000万円を超えたという。